

東浦町ごみの分別と減量をすすめる会会議録

会 議 名	令和4年度第2回東浦町ごみの分別と減量をすすめる会		
開 催 日 時	令和5年2月10日(金)午前10時から11時30分まで		
開 催 場 所	東浦町文化センターホール（1階）		
出 席 者	推進員	水野 博隆	（森岡連絡所長）
		梅村 良文	（森岡地区住民代表）
		鈴木 良弘	（森岡台自治会長）
		佐藤 朋子	（森岡台住民代表）
		内藤 明綱	（緒川連絡所長）
		野村 安雄	（緒川地区住民代表）
		野村 雅廣	（緒川新田連絡所長）
		牛島 次幸	（緒川新田地区住民代表）
		松久 直史	（東ヶ丘自治会長）
		吉田 泰三	（東ヶ丘自治会住民代表）
		鈴木 善博	（石浜連絡所長）
		小山 睦美	（石浜地区住民代表）
		大川 晃	（石浜中自治会長）
		神谷 信三	（石浜中自治会住民代表）
		山田 隆	（石浜西連絡所長）
		原田 隆平	（石浜西地区住民代表）
		原田 正治	（生路連絡所長）
		中村 六雄	（藤江連絡所長）
		新美 信義	（藤江住民代表）
町出席者		神谷 明彦	（東浦町長）
		原田 英治	（生活経済部長）
		新美 英二	（環境課長）
		久野 貴士	（環境衛生係長）
		北田 裕貴	（環境衛生係主事）
		森 加奈	（環境衛生係主事）
議 題	ごみの分別と減量に向けて		
傍 聴 者	1名		

会議内容

環境課長 開式のことば
傍聴者 1 名の報告
会議中の録音・写真撮影の了承

東浦町長 参集御礼・あいさつ

環境課長 本会議の目的と概要説明。

座長選出

本会設置要綱第 5 条の規定により、座長選出を行う。

緒川連絡所長から森岡連絡所長の推薦あり。森岡連絡所長が座長として承認される。

座 長 令和 4 年度では 2 回目の東浦町ごみの分別と減量をすすめる会になる。
1 回目は、6 月にごみ処理施設の見学をした。テーブルでの会議は東京オリンピックの開催時期であった令和 3 年 6 月以来となる。
東浦町はもったいないの気持ちを大切に循環型のまちづくりを目標に取り組みを進めている。成果目標としては、1 人 1 日あたりの家庭系ごみの量を令和 5 年度までに 429 g とし、リサイクル率を 22% とするとしている。
人は、自分の買う物や手に入れる物については高い関心を持つが、捨てる物に対する関心は低くなってしまふ。考え方を変えることは難しいことだが、何としてでも考え方を変えていく必要があるのではないかと思っている。持続可能な循環型社会の構築は、私たち 1 人ひとりの社会で暮らす責務と考えている。本日出席されている委員の皆様においては、東浦町の目指す姿、つくる・つなぐ・支えあう・幸せと絆を実感できるまちが実現できるような活発な意見交換をお願いしたい。

議事進行

議題「ごみの分別と減量に向けて」について、資料 1 及び資料 2 に基づいて事務局から説明した。

資料1 スライド2

「今後のごみの減量施策を検討するため」可燃ごみ・不燃ごみそれぞれの組成調査を実施した。組成調査とは、ごみの中身の割合調べについてである。

また、プラスチック循環促進法が施行され、今後の製品プラスチック対策を検討するため、現状のごみに製品プラスチックが混入する割合を確認した。

可燃ごみの組成調査は、令和4年2月21日～22日の2日間実施した。調査場所は、トーエイ株式会社の藤江にあるリサイクルセンター。調査方法は、町内各地区ごとに無作為抽出したごみ袋、42袋の内容物をごみの種類ごとに計量した。

調査結果は、総重量143kgのうち、可燃ごみ78%、資源ごみ20%、燃えないごみ1%、製品プラスチック1%だった。表の中の硬質プラスチックと円グラフの製品プラスチックは同じものを指す。

可燃ごみの中で1番多かったものが、食べ残し残飯で41%だった。食べ物は、水分を多く含み重量が重いため、水切りや生ごみ処理器の活用により減量を図ること、食品ロス削減のPR活動やフードドライブの開催を引き続き継続していく。

次に、資源として再利用できるもののうち、最も多く混入していたのが、紙類で9.9%だった。紙類の資源化の促進を図っていく。

この結果から、ごみの減量に対しては分別の徹底や水切りなどにアプローチすること、効果があると考えられる。

また、紙類以外の資源ごみの混入は、比較的少なかったため、現在の周知を継続的に行うこと、分別意識の向上を図っていく。

不燃ごみの組成調査は、令和4年6月6日～17日のうちの6日間実施した。調査場所は、トーエイ株式会社のリサイクルセンター。調査方法は、町内各地区に資源ごみの回収コンテナに入れられた、内容物をごみの種類ごとに計量した。

調査結果は、総重量566.2kgのうち、不燃ごみ34.7%、硬質プラスチック9.0%、小型家電17.9%、金属くず30.1%、可燃ごみ8.3%だった。

資源として再利用できるもののうち、1番多かったものが、小型家電で17.9%だった。小型家電の回収ボックスの周知や小型家電で利用されているリチウムイオン電池等の分別の周知を図っていく。

次に多かったのが、硬質プラスチック類で9%だった。現状、硬質プラスチックは可燃ごみであり、国の方針に沿って資源化促進を図っていく。

また、不燃ごみの中に可燃ごみが8.3%含まれていた。本来は、指定ごみ袋で排出していただく必要があるため、分別の徹底を呼び掛けていく。

資料1 別紙

グラフは、有料化前後の可燃ごみの組成調査の結果。左から平成29年度、令和元年度、令和4年度。可燃ごみの割合が年々増加している。令和元年度の有料化により資源ごみや不燃ごみの混入が減少し、分別がしっかりとされるようになったことが分かる。

左のグラフは、平成 29 年度から令和 3 年度までの 1 人 1 日当たりのごみの量を比較したもの。

平成 29 年度の 533 g から平成 30 年度の 557 g で 24 g 増加している。平成 30 年度については、有料化前の最後の年になるため、駆け込みで多くのごみが排出されたのではないかと考えられる。そして、有料化が始まった令和元年度は、473 g で前年度より 84 g 減少し、有料化の効果の表れと考えられる。令和 2 年度は 489 g で、令和元年度に比べやや増加した。新型コロナウイルス感染症によるステイホーム期間中に、多くのごみが排出されたためと考えられる。令和 3 年度は 476 g で、前年度に比べ 13 g 減り、新型コロナウイルス感染症の影響が少し落ち着いた結果と考えられる。

しかしながら、本町の目標値は 429 g のため、多くのごみが排出されているのが現状である。

右のグラフは、令和 3 年度の 1 人 1 日当たりのごみ量になる。各地区の値は、クリーンセンターへの直接搬入を含んでいないため、参考値となる。町全体では、476 g となっており、目標値は 429 g だったが、その中でも地域ごとのごみの量と人口で目標値をクリアした地域が、藤江地区と石浜地区で、藤江地区で 421 g、石浜地区で 406 g という結果だった。

左のグラフは、平成 29 年度から令和 3 年度までの資源化率の推移になる。平成 29 年度は 20.9%で、平成 30 年度は 19.5%と前年度に比べ 1.4%減少している。平成 30 年度は先ほどもお伝えしたとおり、有料化前最後の年で可燃ごみの量が増加したため、資源化率も減少したと考えられる。

令和元年度は 21.2%で前年度に比べ、1.7%増加した。有料化により、可燃ごみの量が減少し資源化率が増加したこと、またごみの分別意識が高まったことが考えられる。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりごみ量の増加とともに、資源化率も減少したと考えられる。本町の目標率は、22%のため資源化の推進を図っていく。

右のグラフは、令和 3 年度の資源化率の参考値になる。

町全体では、21.1%となっており、町の目標値は 22%。各地区のごみの量で計算した参考値ではあるが、緒川新田地区は 21.8%で目標値までもう少しとなっている。石浜地区は、26%で目標値を上回る結果だった。

左のグラフは、可燃ごみの特別回収量の年度別推移。ここでの特別回収とは、粗大ごみ以外の違反ごみの推移を表している。可燃ごみ及び不燃ごみの特別回収は年々減少傾向にある。

資料 1 スライド 7 ページ

続いて、今年度の産業まつりで町内在住 211 人を対象にアンケート調査を実施した。調査日は、令和 4 年 11 月 12 日～13 日の 2 日間行った。調査場所は、環境課出店ブ

ース。

アンケートの内容は表のとおり。1番、普段分別しているごみは。2番、資源ごみをどこに持っていく。3番、大きなプラスチック製品の処分に困ることがある。ここでの大きなプラスチック製品とは、衣装ケースやポリタンク等を指す。

アンケート結果。1番の「普段分別しているごみは」については、複数回答可としている。ほとんどの品目で分別し排出されていた。ボール紙等の分別排出が少ないため、紙類の資源化を促進する必要がある。

2番の「資源ごみをどこに持っていく」についても、複数回答可としている。自宅近くのごみステーションに出す方がほとんどで、93%、役場資源ステーションを利用している方は35%だった。

また、民間のステーションを利用されている方もおり、24%だった。

なお、役場資源ステーションを利用する方は、緒川・石浜地区に在住の方の割合が高かった。

これらのことから、様々な回収場所を併用し、資源化に取り組まれている方もいることが分かる。

3番の「大きなプラスチック製品の処分に困ることがある」については、7割近くの方が処分に困った経験があった。

この結果から、大型の製品プラスチック回収が必要。現状はクリーンセンターへの持ち込みしかないが、プラスチック循環促進法に沿って大型の製品プラスチックを回収していくことも検討していく。

以上の組成調査やアンケート調査の結果を踏まえて、令和5年度以降、製品プラスチックの回収、ミックスペーパーの回収、生ごみの減量にキエーロの周知。この3つの取り組みに力をいれていきたい。

まず、製品プラスチックの回収について。今まで可燃ごみになっていたプラスチック製品を集めてリサイクルすることを考えている。回収対象は、プラマークがついているもの以外のプラスチックでできた製品。例えば、衣装ケースやポリバケツ、ポリタンク、プラスチックハンガー、プラスチックコップ、プラスチック製のスプーン・フォークなど。

製品プラスチックは、役場資源ごみステーションで回収する予定。袋には入れずに、そのまま回収ネットやコンテナへ出していただく。可燃ごみの袋に入らない大きなものも捨てられる。製品プラスチックの回収をはじめると、住民さんの利便性の向上と、可燃ごみの減量、違反ごみ排出の軽減が見込まれる。

製品プラスチックをリサイクルすると、プラスチック製品の原料となるペレットに生まれ変わる。

次に、ミックスペーパーの回収について。今まで可燃ごみになっていた、紙類を集めてリサイクルする。新たに集められるようになる紙は、窓付封筒、圧着はがき、写真、アルバム、カーボン紙、レシート、ラミネートされた紙、防水加工紙、内側が銀

色の紙パックなど。ミックスペーパーは、透明又は半透明の袋に入れて縛って出してください。汚れた防水加工紙は、洗って出してください。回収対象外のは、紙おむつや、トイレットペーパー、ティッシュペーパー、キッチンペーパー、クッキングシート、汚れているもの、においの強いものなど。

ミックスペーパーの回収を行うと、紙類の資源化が促進され、可燃ごみの減量が見込める。リサイクルすると、トイレットペーパーや段ボールに生まれ変わる。

次に、キエーロについて。キエーロとは、土の中に含まれるバクテリアを利用し生ごみを分解・消滅させる生ごみ処理器のこと。使い方は、土を掘って生ごみをいれ、土と混ぜあわせて水を入れて、掘った土を被せる。深く掘って生ごみを入れることにより、臭いや虫の発生が少なく、比較的手間もかからない減量方法と注目されている。実際にキエーロを展示しているので、後ほどご覧いただきたい。

キエーロの作り方は、黒土と蓋付の容器を用意する。使い方は、穴を掘り、掘った土の中に生ごみを入れる。生ごみは、細かく切り、水分や油と一緒に入れると分解されやすい。土と生ごみをよく混ぜて、土を被せる。蓋をして、日の当たる風通しの良い場所で保管。3～4日後に掘り返してみると、まだ生ごみが残っていた。1～2週間後に掘り返すと、全て分解されてなくなった。この作業を続けると土の栄養が豊富になり、堆肥としても利用できる。キエーロを活用すると、生ごみの減量が見込める。

【主な質疑等】

推進員 キエーロは、無償配布するのか。

事務局 無償配布は考えていない。今後モニター募集等の可否について検討する。

推進員 庭の無い家でも可能か。生ごみ処理機の補助は行わないのか。

事務局 庭の無い家でも可能。キエーロを試していただいて、生ごみの減量を図っていただきたい。

推進員 他の自治体の実績はあるのか。

事務局 大元は、葉山町で行っている。近隣だと、阿久比町で補助金を行っている。南知多町も今年か来年辺りでモニター調査を行うと伺っている。

推進員 キエーロは黒土でないといけないのか。

事務局 黒土以外の畑の土で問題ない。ただし、粘土や砂では利用できない。

推進員 キエーロは何か土に混ぜるものなのか。

事務局 容器等の中の土に生ごみを埋めて分解させる一連のことを言う。

推進員 来年度いくつか新事業を行っていくようだが、その中でも重点目標があれば教えていただきたい。また、拠点の回収ステーションについては検討しているか。

事務局 拠点の回収ステーションは検討中。地区と話し合っていきたい。
重点目標については、ごみポスターの更新が2年に1回あるため、その時にあわせて新事業をおこなっている。

推進員 来年度の取り組みは、通常のごみが減ると思われるため良いことだと思う。
現在は、ボックスティッシュのフィルムをはがしているが、今後はミックスペーパーで出してよいのか。薬の容器は今までどおり燃えるごみで出したらよいか。

事務局 ボックスティッシュの回収方法は、ボール紙の回収でフィルムを剥がして出していただきたい。ボール紙は売却できるため分別していただきたいが、ミックスペーパーの回収では、プラスチックが付いていても回収できるためミックスペーパーで回収できないわけではない。カレンダーの金属も回収できるが、分別の協力はお願いしたい。

薬の容器については、プラスチック容器包装のマークが付いているものは、プラスチック製容器包装へ入れていただけるが、付いていないものについては、業者に確認し、改めて周知を図る。

推進員 ミックスペーパーは、風で飛ぶ可能性があるため箱の設置を希望する。

事務局 箱の設置は行わない予定。カラス除けネットで対応いただきたい。

推進員 東浦町コミュニティ推進協議会交付金の加算対象になるか。

事務局 リサイクル費用がかさむため対象としない予定。

推進員 製品プラスチックの回収でプラスチック製の子どもの遊具に金属が付いていたりするが、そうしたものも回収の対象になるのか。

ミックスペーパーの回収は、容器包装の回収と同様に透明又は半透明の袋に入れて排出するのか。鼻紙等の汚いものが入らないように注意喚起などはしていくのか。

事務局 子どもの遊具で金属が付いているものについては、分別して排出していただきたい。リチウムイオンバッテリーが付いている物は、製品プラスチックで回収できないため、バッテリーは外して分別して排出いただきたい。

ミックスペーパーの回収については、透明又は半透明の袋に入れて回収する。資源にならないものの注意喚起については、ごみの分別ポスターに資源のならないものを列記する。

推進員 ごみの量の増減については、追跡調査を行うべき。高齢化や生活困窮により、出すごみの量が減少していることも考えられる。

小型家電の回収量がかなり多い。回収の機会を増やしてほしい。

事務局 現状、各地区の回収は1年に1回だが、小型家電の回収ボックスを各地区で設置しているので、そこに入る大きさの物については、改めて周知を図る。

推進員 製品プラスチックの回収は、各地区で拠点の回収を希望する。

事務局 例えば、各地区のコミュニティセンターや集会所で回収が可能であれば利用させていただきたい。今後も地区の方と相談していきたい。

推進員 新聞屋さんによる新聞の回収で各地区の資源量が減少しているのではないのか。指導できないのか。

事務局 ペーパーレスや新聞販売店による回収等により資源量の減少があるのは認識している。現状、町としては指導ができない。

推進員 粗大ごみの回収は、地区のお助け隊が行っているが、戸別有料収集だけでなく回収しやすいシステムはできないか。

事務局 町としては、粗大ごみの処理券による戸別有料収集での粗大ごみの回収をメインとしている。

地区のお助け隊のように家の中の粗大ごみを運搬することは、町では行え

ないため、廃掃法に基づく業者の許可を行っており、民間企業が担っている。

推進員 各地区の現状を数値で示して周知していった方がよいのではないかな。

推進員 ごみの排出量が少ない地域や資源化率の高い地域の良いところを共有したらよいのではないかな。ホームページには、減量目標が掲載されている。

事務局 各地区のごみの排出量や資源化率の違いを話し合えるとよい。排出量が少ない地域や資源化率が高い地域は、住民がどのような行動をしているのか分かれると他の地域でも取り組むことができるのではないかな。

推進員 ごみ処理有料化の効果をどう捉えるかな。

事務局 有料化により、資料に示したとおりごみの減量の効果はあったと考える。年を追って減量を見込んだが、新型コロナウイルス感染症の影響による生活様式の変化で見込みどおりではなくなった。今後も減量対策により一層取り組む。

推進員 ごみステーション設置の補助制度は設けないかな。

事務局 補助制度を設ける予定はない。町有地で協力できる場所があれば、地元の方々と協力して設置したい。

推進員 製品プラスチックの拠点の設置をしていただきたい。

事務局 製品プラスチックの拠点の設置についても、場所の確保をするにあたり地域の方々と協力して行っていきたい。

推進員 小型家電の回収の際に家電ではないストーブを持ち込み、受入れ拒否される。できない物の周知を徹底してほしい。

事務局 現在も広報等で周知しているが、意見を踏まえ検討する。

推進員 クリーンセンターの火災が、リチウムイオンバッテリーやスプレー缶の混入が問題と聞いたが対策や周知を行ったほうがよいのでは。

事務局 広報等で火災の危険について周知する。

推進員 明らかな事業系のごみのごみステーションに多々排出されるが、町はどの様に考えているか。防犯カメラ設置をしているが、犯人を捕まえることまではできていないのが現状で、どの様な対応をしていくべきか。

事務局 町では、明らかな事業系ごみについては、警察に情報提供を行い、地元の方々と協力して現況の把握に努めている。しかし、車のナンバー等の犯人が確実に特定できなければ、警察もしっかりと捜査ができない。今後地元の方でもその様な現場を見かけたら、車のナンバー等を控えていただき、すぐに役場もしくは警察にご連絡いただきたい。

推進員 石浜地区がごみも少なく、資源化率も高いが、何か他の地区でもごみの減量のアイデア等あればご教示いただきたい。

推進員 森岡では立ち当番を更生保護女性会が行っている。

推進員 石浜中自治会では立ち当番はないが、雨等で紙類を排出できない場合は、資源ごみ専用のサイクルポートを集会所に設置し、雨の時でも排出することができるようになっている。

石浜クリーンイレブンで活動していた際は、立当番を行っていた。

閉会